

	新潟大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:480 第3年次:20） 大学院自然科学研究科（M:487 D:70）
沿革	大正12（1923）年 長岡高等工業学校創立 昭和19（1944）年 長岡工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制新潟大学工学部設置 昭和41（1966）年 大学院工学研究科修士課程設置 昭和61（1986）年 大学院工学研究科博士課程設置 昭和62（1987）年 大学院自然科学研究科博士後期課程設置 平成7（1995）年 大学院自然科学研究科博士前期課程・後期課程設置
設置目的等	<p>大正12年、新潟大学工学部の前身である長岡高等工業学校は、基礎学教育及び専門の学問の基礎的教育を重視し、卒業後そこで養われた基礎力を生かし、多方面に活躍できる人材を養成することを目的に設置された。</p> <p>昭和19年、長岡工業専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時に新潟大学工学部として承継された。</p> <p>昭和41年、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って、精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力を養うことを目的に大学院工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和61年、多様化し、一層高度化に向かう新しい時代の生産活動に対応するために、知識集約的、省資源、省エネルギー、無公害、安全性を基調とした生産に関する基礎的研究を行うとともに、広い領域にまたがる工学的諸問題及び応用技術について、創造性を生かして総合的に開発及び研究を行い、これら研究の成果を基にして、新しい学問と科学技術の発展に貢献し得る優れた人材を養成することを目的に大学院工学研究科博士課程が設置された。</p> <p>昭和62年、理工農学専門分野に加え、境界領域、複合領域に対応できる研究者の養成、共同研究の進展と研究活動の活性化を目的に大学院自然科学研究科博士後期課程が設置された。</p> <p>平成7年、修士課程と博士課程における教育研究のよりいっそうの連続性・継続性を図ること、及び学術研究の進展と急激な社会の変化</p>

	<p>に対応できる創造性豊かな優れた研究者や専門技術者への需要の高まりと、国際化の進展に貢献できる専門的知識・能力をもった人材養成への希望に応えることを目的に、大学院自然科学研究科博士前期課程・後期課程に改組された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>新潟大学工学系分野においては、創造力と総合的判断力を有する有為な人材を育成し、基礎から応用に至る国際的水準の研究を推し進め、社会と連携しつつ、自然との調和に基づいた人類の幸福に工学を通して貢献することを目指しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際社会・産業界・地域社会を支え発展させリードする「国際基礎力・国際教養を持ち、かつ高い専門性を持った人材」の育成の理念のもと、高度な技術者等や高度な研究能力を有する人材育成の役割を果たす。</li> <li>○ 「学ぶ力」と「つくる力」を合わせた「工学力」教育など、特色ある教育改革事業や国際的通用性のある認定プログラムを積極的に推進してきた実績を生かし、学部と大学院教育プログラムを連携する教育改革を進め、高度なエンジニアリング・デザイン教育を取り入れ、グローバルに活躍できる工学系人材を一貫して育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。また、学生の実践的なデザイン教育プログラムを産業界と協働して開発・実施することにより高度な専門職業人養成の充実を図る。</li> <li>○ 複合材料、新エネルギー材料開発に関する先端研究及び情報・センシング研究を含む先端情報通信工学分野などの高い研究実績を生かした研究を推進するとともに、有機・無機機能材料、環境・エネルギー、電気機器、バイオエンジニアリングなど、工学の諸分野の研究についても更なる強化を図る。</li> <li>○ 教員一人当たりの特許取得の高い実績を生かし、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。</li> <li>○ 持続的まちづくりを通じた地域コミュニティの育成と、医工や工農の連携研究、防災・減災に関わる研究など異分野との融合研究を推進し、その成果の地域や産業界への還元により社会貢献を図る。</li> <li>○ 大学院での社会人入学制度により社会人への高度な教育研究の</li> </ul>

	提供を推進するとともに、高等学校教員等への理系科目や科学実験の学び直しや専門教育の提供、及び企業関係者への最先端技術の普及を継続的に一層推進する。
--	---